

令和3年度

第4回加賀市地域公共交通会議

第4回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

議事録

日時 令和4年3月1日（火）
午前10時30分～
場所 セミナーハウスあいりす

令和3年度
第4回加賀市地域公共交通会議
第4回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

日 時 令和4年3月1日（火）
午前10時30分～
場 所 セミナーハウスあいりす

1 開会

会議成立報告 （略）

会長

おはようございます。コロナの収束が見えないなかで、あんしんネットの推進につきまして御努力していただきまして、ありがとうございます。コロナの状況もまだ解決できない状況のなかで、世界的にはウクライナの危機や、次々新しい課題が生まれる時代になりました。成長だけでは限界だぞと、成長だけでは争いが起こるぞと、成長だけでは何か自然を壊しているよ、という警鐘ではないかと思えます。成長と共生、この調和が大事。価値観、生き方、哲学を変えるということではないかと思えます。加賀市の皆さんは色々な制約のなかで、特に公共交通会議の皆様はなんとか共生をしようということで、色々な仕組みを考え、形にされてきました。今回は、あんしんネット、スマートシティの構想とも連携して、あんしんネットの公共交通計画が固まりつつあります。今日はそれを中心にして、理解と討議をしてご承認をしていただきたいと思います。もうひとつのテーマ、変更点がございますので、これは最後に事業者の皆様にご報告していただいて、魂のこもった、思いのこもった公共交通計画を作り上げるという時間になればいいと思えます。多分、日本の他の地域も同じ課題を持ってらっしゃいますので、皆さんの本日の討議が他の地域にも勇気を与える討議になることを期待しています。それでは早速、議事1に入らせていただきます。議題1は公共交通計画が、前回討議していただきましたけれども、まとまりました。それを、事務局からご報告していただきましょう。20分ほどご報告に時間を使っていたいて、20分ほど委員の皆様にご意見いただいて、さらに充実してパブリックコメントに臨むということにしたいと思いますので、よろしくお願ひします。それでは早速、事務局からよろしくお願ひします。

事務局

議事1公共交通計画の策定についてご説明させていただきます。地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正が令和2年11月27日施行されまして、地方公共団体には、地域公共交通計画の策定が努力義務化されました。そもそも、この公共交通計画は、まちづくりと連携した地域公共交通のネットワークの形成や、地域資源の総動員というようなことをしっかりと考えて、計画に基づく公共交通の改善、及び利便の促進を図っていくことを目的としております。また、この計画に基づいて色々な施策を展開していくことによって、国土交通省様を含め、国の支援を

受けやすくなる根拠になるということも、有効だと考えております。令和4年4月の策定を目指して、今作業を進めているところでございます。今後のスケジュールですが、本日の第4回の会議を受けまして、パブリックコメントを実施させていただきます。期間は3月4日から3月17日を予定しております、そのご意見をもとに、もう一度今月末にこの会議を開催させていただければというふうに考えております。それを受けて、4月に入って策定といった運びでございます。では、計画の概要につきまして、日本海コンサルタント様から説明をお願いしたいと思います。

日本海コンサルタント

(加賀市地域公共交通計画計画(案)説明)

事務局

ありがとうございました。こちらの計画につきましては、あくまでも、市がとか、いち事業者がということではなくて、地域一丸となって公共交通を良くしていこうという意味合いで、内容を精査させていただいたもので、中身としても非常に多岐な分野にわたりますので、優先順位をつけながら順に取り組んでいければというふうに考えております。では、会長、皆様にご意見の方お聞きいただければと思います。

会長

はい、ありがとうございます。素晴らしい内容でまとまってきたと思います。前回の会議では現状の状況と方針、私の言葉ですと在りたい姿と言っていますが、在りたい姿についてご討議をいただいたと。今回はそれを、数値目標という課題を提起されましたので、数値目標化して、その目標を達成するための4つの方針、戦略をどう実際に落とし込むかということで、ご報告いただきました。今までやってきたこと、加賀市の公共交通会議でやってきたことをベースにして、それを進化しようというお話が随分入っていました。これは非常に素晴らしいことだと思います。ということで、さらにこれを磨き上げてパブリックコメントで市民の皆さんからご意見いただき参画していただくというためにはどうしたらいいか、ということで委員の皆様からご意見頂戴したいと思います。パブリックコメントをひかえていますので、市民の皆様からご意見頂戴したいと思います。区長会の方からいきましょう。

委員

私、初めて参加しまして、頭の中がまとまっていないので、発言は後からにさせていただきます。

会長

はい、わかりました。では、皆様のご意見聞いて、後ほどお願いします。

委員

今の案で非常によくできていると思うのですが、免許返納と公共交通というのは非常に難しい部分といたしますか、小回りをきかずという点では、自分で運転した方がいいけれども、非常に危険であると、老人の方では息子さんなどが、免許返納して色々とお手伝いしてあげると言われる

のだけれども、お手伝いしていただけるのは2.3か月。それより後はどうしても公共交通を利用しなかったら動きがとれないことになりますので、今のMaaSの中でも、スマホなんかが普及されてくれば、我々の交通も使うのに便利になってくるのではないかと、そのへんも含めて、老人が分かりやすいようなシステム、できるだけ簡単なシステムをあわせて検討いただければありがたいというふうに感じます。

会長

はい、ありがとうございました。今、委員のようなご意見、お立場の方いらっしゃいますね。私も同じような年齢なので、免許返納してしまいました。早めに。そうすると、公共交通に非常に興味をもって色々な状況を知って、学んでいくという良さもありますので、そのへんを理解できるように、ご説明をお願いします。それでは身体障がい者福祉協会の方をお願いします。

委員

身体障がい者ということで、歩いたりするのが、どうしても不便な人がいっぱいいるので、普通の公共機関だと、路線バスとか決まっていて、乗合タクシーな場合ですと場所が決まっていますよね。そこまで出ていくのがまた難しいということで、町内でも歯医者行くのに乗合タクシー断ったから送ってもらえないとか、私はまだ免許を持っていますので、そういう時は行くときだけなら送っていったりする。そういう人たちをどういう風にするかも検討していただければと思います。路線バスが通っているところは巡回のいいところはまわるのですけれども、どうしても若い者は仕事に行ってしまう、一人暮らし、二人暮らしの方で免許返納している人もいます。そこらへんもまた知恵を絞って検討していただきたいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。身体障がい者の方のそういったご意見についても、パブリックコメントで意見が吸い上げられるというような、内容とご説明をお願いしたいと思います。高齢者の社会参加というのが、ひとつの数値目標としてありましたよね、これいいことですよ、元気な高齢者が元気でない高齢者を支援するというでまた触れ合いが、公共交通のひとつの価値になるかなと思いました。ありがとうございます。

委員

だんだん充実してきたなと思うので、続けていければいいなと思っています。私が勅使でやっていた時の乗り合い号は10年ほど前なのですが、当時の環境と現在の環境がかなり異なってきているなと感じています。当時は免許証を持ってない高齢者が大部分で、女の方はほとんど持っていませんでした。ところがこれから高齢化していく方はほとんど持っておられる。こういう人が免許証を返納して乗り合いなり路線バスに移行してもらおうというのは、当時と違ってかなり難しいのではないかと。私たちがやっていたころは、少し高齢化してきたら、これ乗ったらどうだと言って、割と素直だったのですが、今、高齢化している方は非常に抵抗があります。先日も、まだ運転しているのと冗談半分に言ったことがあるのですが、畑も田んぼも行けなくなるからやめられないということで、相当な高齢者なんですけれども、田んぼ行く手段としても使っているということもひとつあるのかなと、大変だと思いますけれども交通事情も以前よりややこしくな

ってますし、車の性能が上がってますので、余計事故を起こしやすいというのものもあるのかなと。乗り合い号に関しては他の資料を見ましても随分便利に改良されているなと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長

はい、ありがとうございました。委員はこの公共交通の創造者だと思っています。そのご体験は非常に貴重で、そのご意見も非常に貴重で、ぜひ計画の中に少しずつ入れ込んでいきましょう。歴史に基づいた計画というのが一番強いですし、これは他に地域も必ず参考になるはずです。それでは、これからバス事業者等の皆様をお願いしてお話を聞きましょう。

委員

私の方からは、個別の案件は今からそれぞれ協議させていただきたいなと、そんな中で、私も当然、法律に基づいて関係官庁からご指導いただきながらと思っております。目指すところは皆様と同様にご利用者をいかに増やしていくか、というところが共通項目かなというふうに思っております。ただ、現時点においては、通常時と違ったコロナという大きな問題を抱えておりますので、アフターコロナにおいてはどのような利用状況になるのか、そういったところも見定めつつ、今後計画については協議の方をさせていただければと思っております。

会長

はい、ありがとうございました。キャンバスも含めて先ほどいいデータがありましたね。ご努力が数値で、利用者さんが確実に増えてきていると、あのデータ非常に貴重だと思いました。そしてコロナで激減ですから、これも事実を書いて、でも激減の状況でも、安心ネットは壊さない、守り抜く、そしてアフターコロナで早期に立ち上がるというのが、データで示されると素晴らしいと思いました。ぜひ、先ほどのデータ、そして激減しているデータを大事にしましょう。貴重な体験をなさっていると思いました。

委員

キャンバスですけれども、ちょうど2000年に創業しまして、今年で22年です。観光を目的に進めて参りましたが、加賀市の公共交通事業者の方向性の尊厳とか、地域住民の足になるように参画させていただいております。あとでご説明をしますけれども、キャンバスの路線の見直しを進めていきたいと思っております。それと計画を拝見しまして、一緒に取り組ませていただきたいと思います。ただ、先ほど委員がおっしゃった、もっと具体的なところを懸念しているのですけれども、どうやってMaaSのお客を増やしていくのか、それと、前回の資料で路線バス、キャンバス、乗り合い号の改善が必要と思われる、44ページですね、便数増やしてくださいと書いてある、それから、北鉄加賀バスさんは実施されていると思うのですが、フリー乗降制度の導入と拡大、これは運行形態とかいろんなところに関係する部分でございまして、このへんが今利用されたい方が望んでいることなのだと、市としてはこの計画立てているところ、どこかで一致させていただいて、蓋をあけてみたら利用してなかったということではいけないので、どうやって利用者を増やしていくかということが大事ではないかと思っております。

会長

はい、ありがとうございます。今も大事なご意見、常に新しい課題がでてきてまいります、データで検証していくということを積み上げながら、キャンパスも進化してきました。深めたり、新しいことやったり、進化というのがそれぞれの業者の皆さんが継続的になさっているのが加賀らしさかと思っています。それでは公共交通ささえていただいている産業界の皆様ということで観光交流機構の方お願いします。

委員

前回の協議会でも MaaS の取組について、MaaS ってアプリを触ったことがないのでイメージができないのですが、今回の資料の中でも、市民サービスから始めて、段階的に観光客へ拡大ということを検討すると記載されておりますが、それについてはその方向でいいかと思いますが、やはり 2024 年の春に北陸新幹線が敦賀延伸し、加賀温泉駅も新幹線が入ってくるというところで、こちらにも書いてある分かりやすい公共交通の情報提供と、市民サービスがまず優先ということだと思います、やはり一気にお客様の流れが変わってくると思いますので、MaaS をというわけではないのですけれども、市民サービスの中で得られた色々なデータに基づいて応用していただければいいかなというのと、タイムスケジュールのなかで、2024 年の 3 月という北陸新幹線の敦賀延伸を見計らったスケジュールというのも、観光分野について少し時期的なものを盛り込んでいただけるといいのかなと、目標感というか、小松空港へのアクセスなんかも大事になってくると思いますし、行きは新幹線帰りは飛行機、逆もあると思うのですけれども、こういったことも含めて今から検討いただいて盛り込んでいただけるとありがたいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。今回の計画はあくまで未来を創るですよね、みんなの生活の未来を創る、というと見えている未来がありますから、入れ込んでリアリティを向上しようと、公共交通はコミュニケーションだというふうに捉えているので、何か新しい世界ができるかなと思いました。加賀商工会議所の方お願いします。

委員

女性の立場として色々見てきたのですけれども、女性会も高齢化しまして新しい方が入らず、人数も少なく困っている状態なのですが、やはりそういったことで、公共交通というのが今から大事になってくるとは思います。それと、地元を見直すということで、MaaS とか色々利用しまして、地元の人がまずそれを使って、勉強してというのがいいのではないかと考えています。分かりやすく色々な人に説明してほしいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。女性の目線でいいご提案いただきました。分かりやすく、そしてひとりひとりが自分のための公共交通、トライしよう、やってみよう、支えようという流れをぜひ入れてください。ケアの時代になると、主役は女性になってきます。ぜひ女性が参画して先導していただけるという流れを作りましょう。

委員

意見というより感想になってしまうのですが、今後5年間の具体的な取組を拝見しまして、例えば交通版 EBPM ですとか、MaaS のこととか、新幹線の県内全線開業を踏まえた観光的なところとか、インバウンドも含めて、加賀市さんならではの部分が色々盛り込まれているというふうに感じました。

会長

ありがとうございました。いいご意見ですね。乗り合い号を委員が立ち上げたのも住民が立ち上げた、それを全国も注目して第一交通さんも頑張っていたという形でテイクオフしたというのがまだ記憶に覚えています。その伝統がありますので、みんなで作るということを軸にしましょう。

委員

私の方はこの地域公共交通計画を所管する立場にあります。今回、何回か協議会の議論を通じまして、このような緻密な形で作っていただいたことに感謝申し上げます。ただし、この計画はあくまで計画ですので、目標があって、そこに達するためにはどうすればいいのかという、道筋とか方向性を示したものになります。あくまで方向性ですのでそれをどうしていくのか、何をしていくのか、実施計画、R何年度までに何々しますという計画も入れていただいてこれを実施していく、アクションプランというやつですね、これを立てたうえで実施していかないと行かない、目標は達せられない。ですので、計画は作ってしまってそれで終わりというものではなくて、何をしていけばいいのか、常に考えていく必要がある。PDCA常にチェックしながら改善点があれば見直していきましょうという考え方ありますけれども、見直しの方もこの協議会を通じて引き続き行っていただきたいということをお願いしたいと思います。あと各委員の方からお話ありましたけれども、高齢者の方が使うにあたって敷居が高いのではないかと、観光のお話、全て繋がっているのが公共交通を軸として色んな分野が繋がっている、教育の話もありますし、労働の話もあります。いろんなことが公共交通をベースに繋がっている、その意味で公共交通の重要性というのは認識できるかと思います。ただその公共交通というのは使ってあげないと今後維持できないものになります。いかに使っていただかないとだめなのか、そういう意味でこの公共交通計画を作っていただいて、どんどん使っていきたいと思いますというものになっていくのですけれども、どうしても公共交通というのは最初に使う一歩というのが心理的な敷居が高いというのがあります。そのハードルを一回越えてしまえば、楽に使えるという特徴があります。1回使ってしまうと2回目は本当に簡単、使ってしまうと、なんだ次も使えるねというのをどんどん増やしていく、ということも大切だと思います。そういう意味で使っておられない方をどういう風に誘導するか、誘って一緒に使おうよという運動、キャンペーンをこの協議会から発信していくというのが大切だと考えております。そういうことを通じて利用者を増やして公共交通を支えて、観光であったり繋がっている分野を盛り上げていく、そういったことが大切です。公共交通計画の意味というのをまた認識していただいて、PDCAというか見直しは常に行っていただければと考えております。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。ご専門ですので素晴らしいご意見いただきました。

委員

コロナ禍で皆さん大変なのですけれど、タクシー業界も人流あってこそその立場で成り立っているのですけれども、加賀市においてもたくさんの温泉街を抱えておりまして、温泉客の方もいらっしゃるという状態で大変なときなののですけれども、先ほどもお話出ましたけれども、新幹線も開業するということによって、コロナも終わります、早く人流が戻ってきて活力ある加賀市になっていただきたい、そしてまたタクシーもきめ細かい対応ができますので、ご自宅までの送迎もできますので、早くコロナが終わります、人流が戻って観光も含めて活力ある加賀市になっていただきたいと思っております。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。私からひとつだけ意見を言わせてください。あんしんネットのところで絵がでてきました。素晴らしいと思います。あれを充実させましょう。1枚で内容が分かると、成果事例も位置付けられるというものにできるなと思いました。例えば、使って繋げるあんしんネットとか、あんしんという言葉にこだわったので、定義づけしましょう。定義づけることによって加賀らしさがでてきます。あんしんとは、例えばふれあい、助け合い、愛し合い、そして心も体もあんしんとか、あるいは使って繋げる加賀ネットとかね。温泉マークが入ったあの円があるでしょう。あの円の意味は非常に高いです、石川県で使うと。なぜかという、西田幾多郎、鈴木大拙、世界の哲学者を石川県が輩出しているんです。あるいは魯山人とかね。道場さんもそうかもしれません。基本的な考え方をもった哲人を生み出している文化があるんです。それが円なんです。色々矛盾があるけれども円で繋ごうよ、というのが日本のシステムなんで、ぜひ円が入った、温泉が入った、企業も入って、高齢者も入って、全ての人が入って繋がるという風土、文化づくりということで、あの絵を深めるといいと思いました。あのなかに事例が入る、例えば前回の会議の時に校長会の方が最後に来ていただいて、新幹線が来るので、高校で温泉学という専門学科を作りますと言われたんです。金沢のときに成功したと。素晴らしいことですよね、温泉学科ができれば、例えば高齢者の方も温泉学を学ぶ、そうすると変わっていくと思えます。ハワイが再生したのが、ハワイのホテルが市民に開放したんです。温泉旅館ももうやってらっしゃるかもしれません。市民に開放する日があってもいいんです。そのときは公共交通で行きましょう。ルールを作ればいいんです。という気がしましたので、あの絵で色々なままでの施策が繋がるなと思いました。いいご意見いただきました。ありがとうございます。それではこの計画についてパブリックコメントに向かうということで皆さんご承認ということでよろしいでしょうか。それでは承認ということにさせていただきます。それでは、その他に入ります。従来の時刻変更等の案件がございますので、まず北鉄加賀バスさんからお願いします

北鉄加賀バス

(その他(1)説明)

会長

はい、ありがとうございます。それではもう一件、キャンバスからお願いします。

キャンバス

(その他(2)の説明)

会長

ありがとうございました。具体的な変更案でした。

事務局

(その他(3)の説明)

(その他 京福リムジンバスが合併され、京福バス加賀営業所として運行する旨の報告)

会長

はい、ありがとうございます。それぞれの事業者の皆さんもこのコロナの中で、生き残る、共生するために色々工夫されています。本当にご苦労様です。また御意見ございましたら、事務局の方へ個別にお願いしたいと思います。それでは全体のご感想よろしくお願いします。

委員

はい、ご苦労様でした。結構色々な意見がでまして、私どもも参考にさせていただきたいな、おもしろいな、深く考えさせられるなという意見もございました。今日の新聞を見ていましたら、おもしろい記事がありまして、国の方は各自治体に色んな計画をたくさん作らせているのです。それが自治体では負担になっている、これは整理した方がいいのではないかという記事がでていました。私は必ずしもその意見に組ませませんが、今日のコンサルの方のお話とともに、委員のお話を思い出してみたいです。コンサルの方でも介護保険事業計画を見たというお話がありましたが、実は高齢者の実態を一番捉えている姿というのが介護保険事業計画、これ非常に細かく勉強しております。これを見ないで公共交通計画だけを議論しても意味がないかもしれないと本音としては私思っています。なぜこんな風に言うかということ、委員と私の若いころ一緒に乗り合いを進めていた担当者だったものですから、今はそんな風になったのかなという実感とともにお年寄りの姿を描いております。もうひとつ皆さんにご紹介したいのが、警察庁の方から出されている統計を見ますと、毎日1.3人の方が家族によって殺されている。この理由のほとんどが介護疲れです。これは由々しき事態として毎年報告されている数字です。こういうことが介護をベースにして起こってはいけないだろうというのが、加賀市の介護保険計画の基本の考え方になっています。つまり、本来の介護の姿というものを、高齢者はますます元気でやってもらわないといけないときに、このような不幸なことを起こしてはいけないということを考えたときに、委員のご意見の中で、田んぼ行くのに免許証取られたら大変なことになると、本音としてはそうですね。そうすると、そういうものも含めた交通のあり方を考えないと、これからの本質的な意味での公共交通は考えられないのかもしれないと、昔の委員と一緒にやっていた同士としての感想です。それを改めて申し上げたいなと思いました。それとEBPM、こういうふうな考え方というのは定量的なものをデータとして取りながら作り上げていく、これは非常に大事なことでございまして、

ともすると抽象的な感想だけで政策がつくられる危険性があるわけですが、そうではなく、市民の具体的な声を聞きながらやるというのが大事だなというのは私は常々思っており、計画自身を作り上げていくときにまず、複数の計画がそれぞれの視点で組み合わせていったときに市民の目線がそこに集約されていくなど、そういう意味でただたくさんの方によって計画が作られているというのは、私はちょっと違うのかなと実感としては思っています。今後、公共交通の考え方の中で、例えば、ダイヤグラムはどうやって編成するかといった問題がでてくるわけですが、こういったものを定量的な市民目線で考えておくというのが重要なことだと今日改めて思い知らされました。それとともに、2024年加賀温泉駅に新幹線停まるわけですが、私どもとしてはあの周辺をライズタウンという位置づけでその開発にかかる意見の集約をやりようとしています。この街を作り上げていくときの大事な視点は公共交通です。この公共交通の集約されたスタイルとして、今お聞きしたご意見を参考にさせていただいて、実現させる方向で考えていきたい。そしてその上で、観光地としての視点であったり、住宅地としての視点であったり、そういうものをつないでいくためのアクセスの拠点になるところが加賀温泉駅周辺のライズタウンであると認識しておりますので、皆様、ご協力とご支援をお知恵とともにいただきたいなと思った次第です。本当に今日はありがとうございました。

会長

はい、ありがとうございました。歴史が積み重なって計画ができています。歴史で未来を創ると。今のお話もぜひあんしんネット、あの一枚の絵の中に未来のイメージがあるとされていくといいなと思いました。それでは事務局の方にお返しします。

2. 閉会